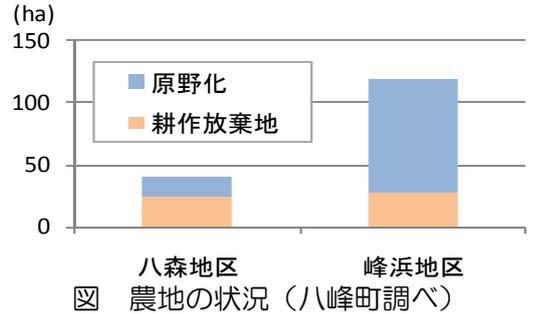


# 菜の花プロジェクトと廃食用油からのBDF 利用について

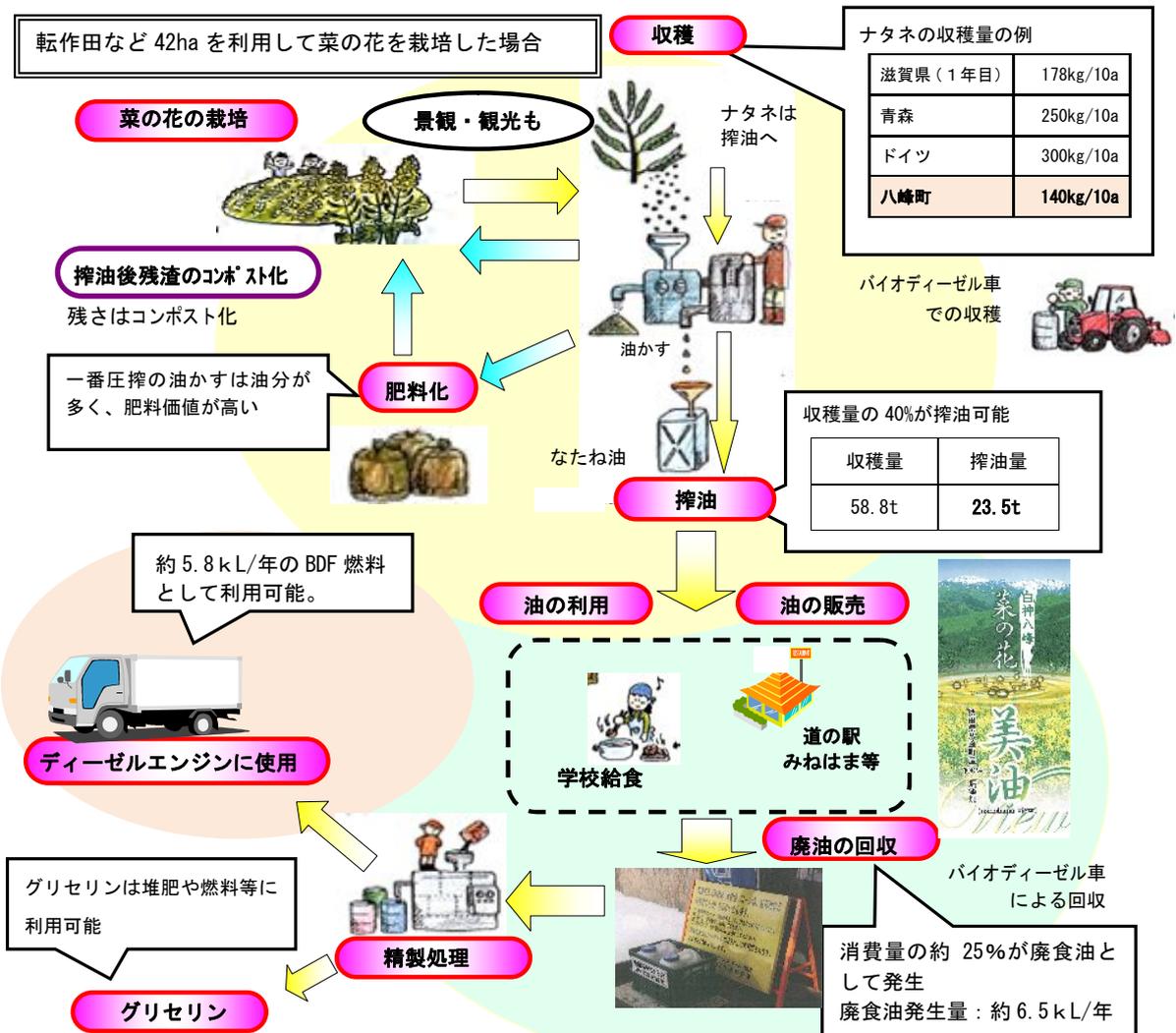
## 1. 菜の花プロジェクトについて

農業部門において、高齢化や転作政策によって遊休農地の増加など、水田が持つ治水（ダム）機能など多面的機能の低下が懸念されています。菜の花プロジェクトを通じて、特産品と食の安全・安心提供、景観形成を図りながら、本町の根幹を支える山⇒川⇒農⇒海という循環機能を促進していきます。



### ～菜の花プロジェクトとは～

菜の花プロジェクトとは、食用油の原料となる菜の花やヒマワリを栽培し、その油を食用に利用した後回収・BDFとして利用することで、農業農村振興や環境保全・地球温暖化防止を図っていかこうとする取り組みです。遊休農地などで菜種やヒマワリ等の油糧作物を栽培することで農地が有効活用され、農地と景観の保全や保全が図られます。また、菜の花の栽培や収穫、食用利用を通じて、観光や教育の取り組みへの活用や、地域の特産品づくりなどに役立てることもできます。利用した後の廃食用油を回収し、BDFとして軽油代替利用することで地球温暖化防止にもつながります。



## 2. 廃食用油からのBDF製造について

～BDF (Bio Diesel Fuel) とは…～

BDF(バイオディーゼルフューエル)とは、有機物から作った軽油の代わりに使う燃料のことです。菜の花の搾油粕、廃食油等を精製すると軽油代替燃料であるBDFができます。これまで捨てられていたものを再利用する資源循環型の燃料で、化石燃料と違って植物がある限り生産可能であり、環境にやさしいエネルギーとされています。

### ●1年間で町で出されている廃食油の量

部門	廃食油
公共施設(ハタハタ館)	5,160 リットル
家庭	9,191 リットル
事業所	40,100 リットル
<b>合計</b>	<b>54,451 リットル</b>

このままゴミとして出されると…

約49トンが捨てられることとなります。(※比重を0.9と仮定)

☆BDF(軽油代替燃料)にすると…

町全体での軽油使用量は約420万リットル年間に使われています。

八峰町役場公用車(軽油)が年間に使う量とほぼ同じ

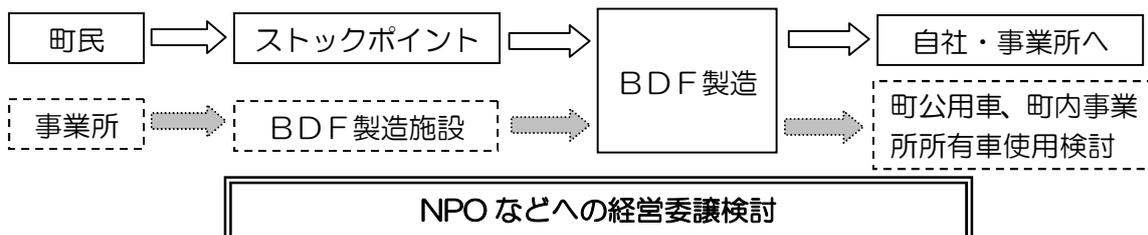
約46,200リットルが製造可能です  
(※製油率85%と仮定)

町全体でのトラクター、コンバインが年間使う量約47,000リットルともほぼ同じ。  
(※燃費1リットル/1時間、トラクター6時間30日、コンバイン6時間20日/年間と仮定。)

◎CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)削減量  
(46,200リットル使用した場合)  
⇒約121,000kg-CO<sub>2</sub>削減できます。  
※1リットル当たり約2.6kg-CO<sub>2</sub>の削減となります。

### ●ゴミの減量化とBDF推進のため

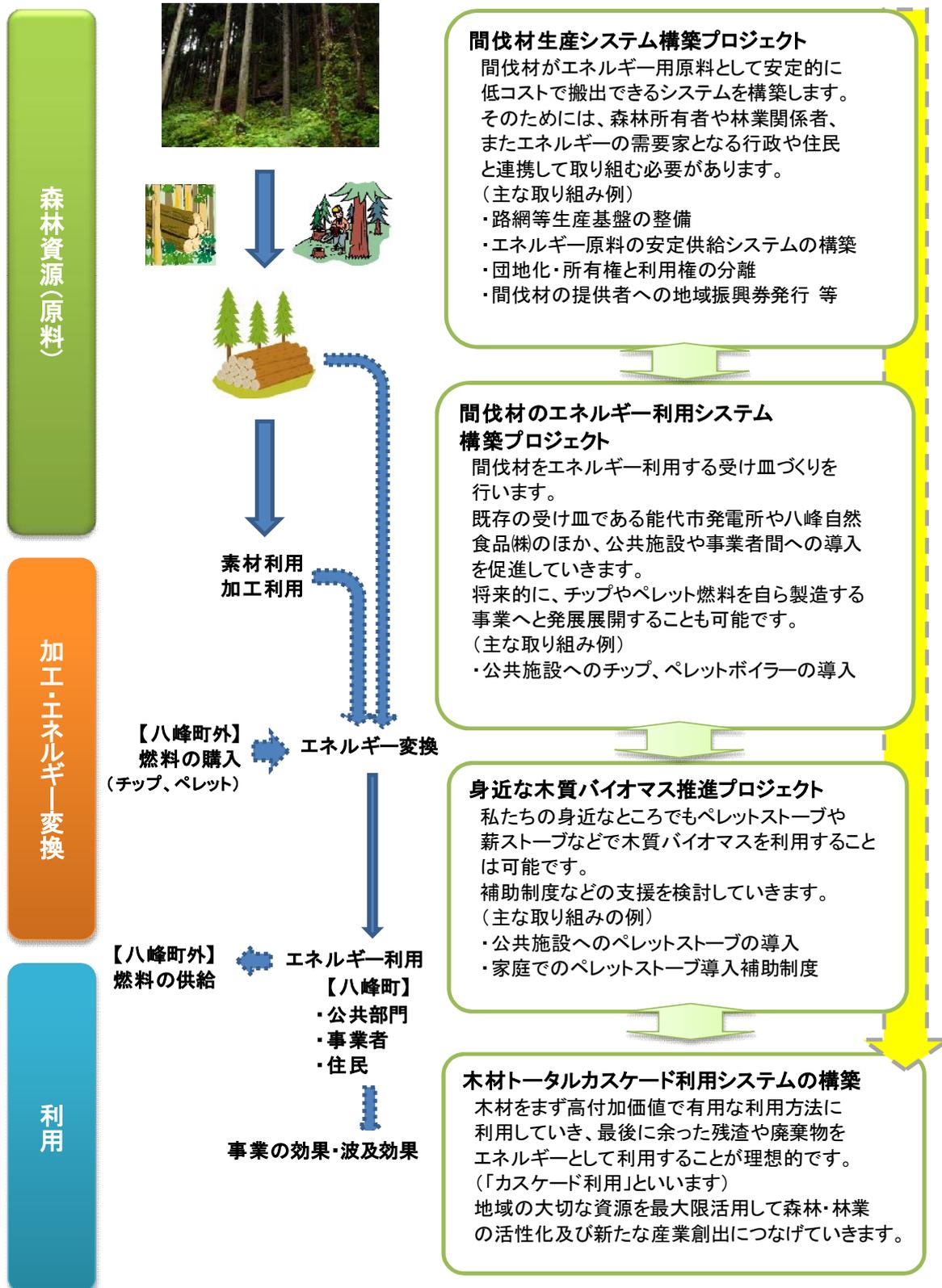
- 一町一 【現在】5地区(自治会)とファガスで廃食油の回収を実施中  
【今後】回収地点の増加を図っていきます。
- 一業者一 【現在】町外業者が回収して、BDFを製造し、町外で使用  
【今後】町内及び町外業者が回収して、町内でBDFを製造して、町内で使用



## 木質バイオマスエネルギーの利活用の推進について

地域の大切な木質バイオマス資源を有効利用していくためには、様々な主体間の連携・強力が不可欠です。また、町民・事業者ひとりひとりができることに取り組むことも重要です。

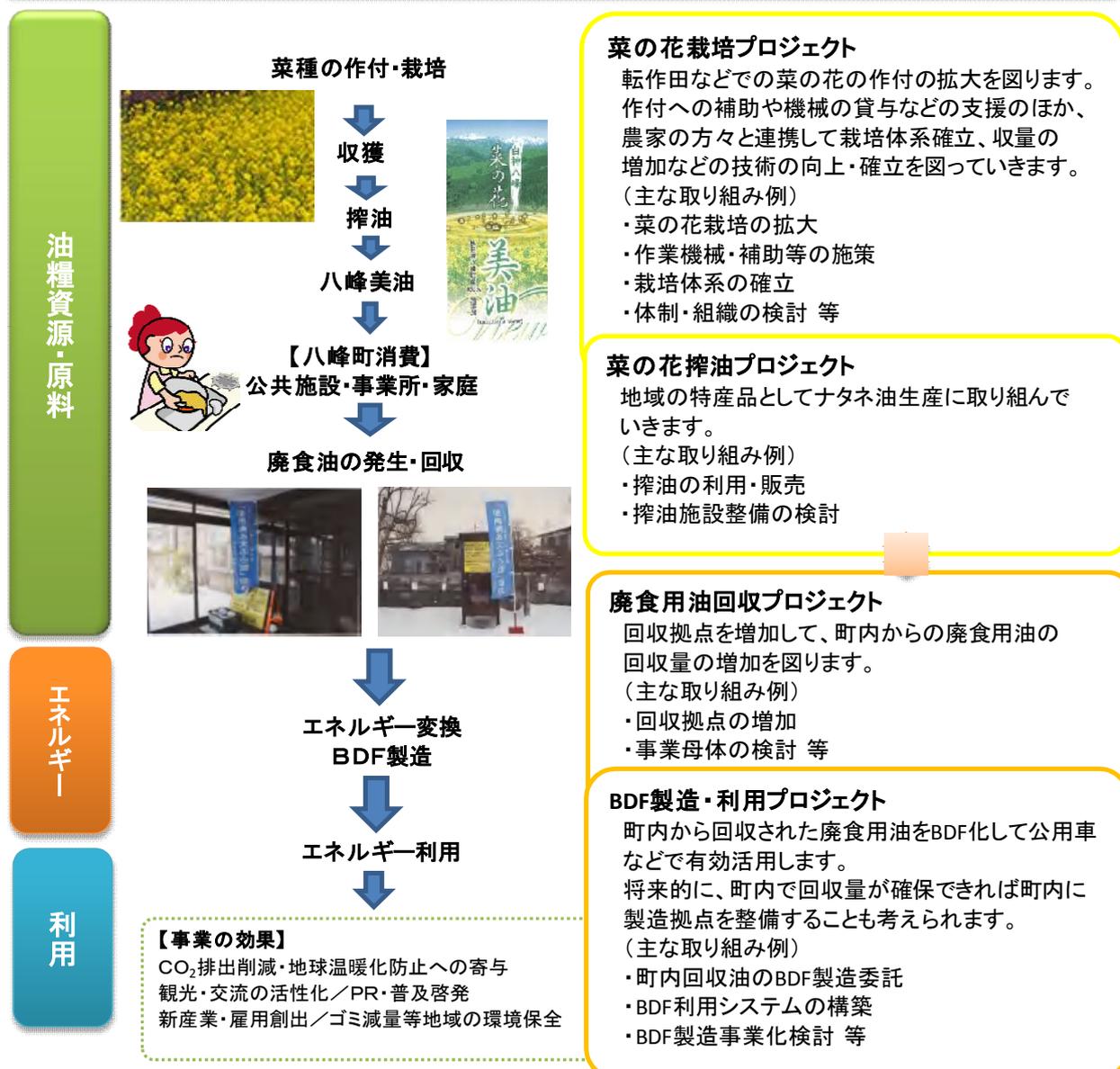
町としても、率先的な導入などの取り組みのほか、普及啓発や補助・支援、体制づくりなどに取り組んでいきます。



## 菜の花プロジェクトと廃食用油からの推進について

農業者を中心とした菜の花プロジェクトにおいて、農地の保全・活用の促進、特産品の生産による農業振興を図っていきます。そして、菜の花の搾油・利用に係る生産者と消費者のつながりのなかで、食や農および地球環境に対する認識を高めながら、廃食用油の回収を進めます。また、回収された廃食用油を目に見え形で有効活用するBDFへの変換・利用を通じて地球温暖化に貢献します。これらの取り組みに地域一体となって取り組んでいきます。

### 八峰菜の花プロジェクト～白神から発信する資源循環型社会の構築！



## 平成21年度 八峰町地域新エネルギービジョン策定等事業

発行日／平成22年2月

発行／秋田県八峰町 企画財政課

〒018-2502 秋田県山本郡八峰町峰浜目名瀧字目長田118番地

TEL 0185-76-2111 FAX 0185-76-2113